

デンカ

プラスチック TYPE-1S

小間隙用無収縮グラウト材

ハイプラスチック TYPE-1S

小間隙用超速硬性グラウト材



Denka

小間隙用無収縮グラウト材

デンカ プレタスコン TYPE-1S

小間隙用超速硬性グラウト材

デンカ ハイプレタスコン TYPE-1S

当社は無収縮グラウト材のパイオニアとして、多様化するグラウト工事に絶え間ない材料開発を続けております。このたび、新たに流動性保持性能を向上させた「プレタスコン TYPE-1S」を加え、「ハイプレタスコン TYPE-1S」とともに、お客様の施工条件に合わせたプレミックス無収縮グラウト材をご提案いたします。

1

特長

- ①狭い間隙への充填が可能です。**
一般のグラウト材に比べて砂の粒径が細かいため狭い間隙への充填が可能です。(砂の粒径:一般品5.0mm以下、本製品1.2mm以下)
- ②流動性が優れています。**
小さなW/Cで高い流動性が得られ、空隙の少ないグラウトを可能にします。
- ③早強性に優れ、長期強度の増進が望めます。**
デンカプレタスコンTYPE-1Sは優れた早強性を有します。また、デンカハイプレタスコンTYPE-1Sは速硬タイプなので低温下の施工や、緊急施工にご使用頂くと効果的です。
- ④ブリーディングや沈下・収縮がありません。**
空隙の発生を招くブリーディング現象がありません。また無収縮成分が沈下、収縮を防ぎますのでグラウトの重要な条件である「かなめ」としての役割を存分に発揮します。

2

各製品の主な適用箇所

製品	主な特長・適用箇所
プレタスコン TYPE-1S	橋脚銅板巻き立て 小間隙グラウト
ハイプレタスコン TYPE-1S	小間隙グラウト(緊急グラウト工事)

3

一般特性

- ①荷姿：25kg 袋**
- ②セメント砂比(C+T)/S：1/1**
- ③外観：セメント系灰白色**
- ④使用モルタル温度範囲：5~35℃**

4

荷姿



紙袋
25kg



紙袋
25kg

5

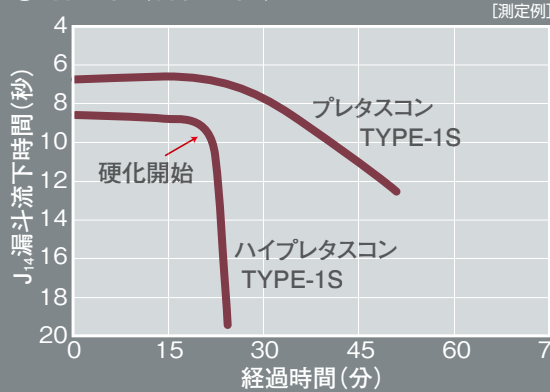
標準配合と1袋当りの配合

1m ³ 当りの標準配合	製品	種類	目標軟度 J ₁₄ 漏斗流下値 (秒)	W/(C+T) (%)	単用量(kg/m ³)		1m ³ 当りの 使用量
					材料	水	
	プレタスコン TYPE-1S	一般タイプ	6±2	38.0	1,825	347	73袋
	ハイプレタスコン TYPE-1S	超速硬タイプ	8±2	34.0	1,875	319	75袋

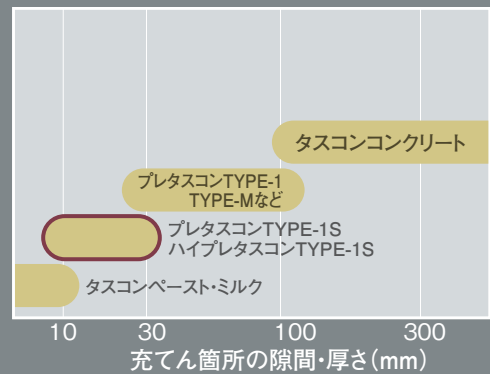
1袋(25kg) 当りの標準配合	製品	種類	目標軟度 J ₁₄ 漏斗流下値 (秒)	質量(kg)		練上り モルタルの量
				材料	水	
	プレタスコン TYPE-1S	一般タイプ	6±2	25	標準 4.3~5.2(4.75)	約13.7ℓ
	ハイプレタスコン TYPE-1S	超速硬タイプ	8±2	25	標準 4.0~4.6(4.25)	約13.3ℓ

保水性(練置き性)

① 保水性(練置き性)



② 充てん性の目安(間隙)



一般物性

製品	W/(C+T) (%)	J ₁₄ 漏斗値 (秒)	ブリーディング率 (%)	膨張収縮率 (%)	凝結時間(時一分)	
					始発	終結
プレタスコン TYPE-1S	38.0	6.0	0.0	+0.35	5-06	7-11
ハイプレタスコン TYPE-1S	34.0	8.0	0.0	+0.13	0-25(硬化時間)	

[測定例]

注)試験温度20℃

圧縮強度

製品	養生温度 (℃)	*圧縮強度(N/mm ²)					
		3時間	6時間	1日	3日	7日	28日
プレタスコン TYPE-1S	5	—	—	4.3	14.1	38.7	53.8
	20	—	—	16.2	44.1	52.1	62.5
	30	—	—	32.5	48.3	56.9	65.6
ハイプレタスコン TYPE-1S	5	10.9	13.0	19.2	32.3	41.1	50.3
	20	17.3	19.2	32.5	43.0	51.8	63.0
	30	19.2	22.2	35.3	44.4	53.0	66.7

[測定例]

使用上の注意点

練混ぜ

- 練混ぜ水は、油、塩類、有機物などを含まない清浄な水を使用してください。
- 使用水量は、材料温度、環境温度、ミキサの形式、練り量などにより、変化しますので、あらかじめ試験練りを行って、水量範囲の中で適正水量を確認してください。
- 練混ぜには、モルタル専用高速ミキサか900rpm以上のハンドミキサを1分~2分間練混ぜを実施して使用してください。ハンドミキサの回転翼はステンレス製や鉄製の物を使用し、**アルミ製は異常膨張の原因となりますので絶対に使用しないでください。**
- 練混ぜ水が適正な量でない場合、硬化体に異常が生じ、無収縮グラウト材の性能が損なわれますので、指定の水量以外では使用しないでください。
- J14漏斗流下値にて目標軟度を外れる場合は、上記範囲で水温、水量の調整を行ってください。

コンクリート表面の清掃

- 注入前にコンクリート表面の油類、レイタンス層、泥土を除去するとともにコンクリートに十分清水を吸水させてください。

注入・充填

- グラウト注入の前に、周囲の既設コンクリートにプライマーの塗布または水打ちを実施してください。
- グラウトは、自重圧工法またはポンプ施工により片側から注入・充填を開始し、流出側からモルタルがあふれ出るまで連続的に注入してください。巻込み空気や未充填部が残らないような処置を

行ってください。

- モルタルは高アルカリ性ですので、アルカリ性の環境条件で腐食するもの(アルミサッシ等)には、直接モルタルが触れるような施工は避けてください。

養生

- グラウト施工終了後、モルタル表面を養生マット等で覆って、直射日光や風の影響を避け、絶えず湿っている状態に保持してください。冬場等で外気温が低い場合(5℃以下)には保温養生を施してください。養生が不足しますとグラウト表面にヘアクラックが生ずることがあります。
- モルタルの露出部分は、急激な乾燥や長期にわたる乾燥によってひび割れが発生することがあります。
- 圧縮強度測定用の型枠は、内側にハクリ剤を塗付し、モルタル流込み後は、ラップ等で表面の乾燥を防いでください。
- ハイプレタスコン TYPE-1Sは冬場等で外気温が低い場合は、水中養生を避け、封かん養生を施してください。モルタル表面にクラックが生ずることがあります。

製品の保管上の注意

- 普通セメントより吸湿性が高いため、いったん開封したものはその日のうちに使用してください。
- 製品は直射日光、雨水の影響を受けない乾燥した室内に貯蔵保管してください。

本社
東京都中央区日本橋室町2-1-1 (日本橋三井タワー) 〒103-8338
電話03-5290-5363

大阪支店
大阪市北区角田町8-1 (梅田阪急ビル) 〒530-0017
電話06-7176-7456

名古屋支店
名古屋市中村区名駅南1-24-20 (名古屋三井ビルディング新館) 〒450-0003
電話052-571-4535

福岡支店
福岡市博多区冷泉町5-35 (福岡祇園第一生命ビル) 〒812-0039
電話092-263-0841

新潟支店
新潟市中央区東大通1-3-10 (三井生命ビル) 〒950-0087
電話025-243-4121

北陸支店
富山市桜橋通2-25 (富山第一生命ビル) 〒930-0004
電話076-433-1441

札幌支店
札幌市中央区南2条西2-18-1 (NBF札幌南二条ビル) 〒060-0062
電話011-281-2301

東北支店
仙台市青葉区本町1-10-3 (仙台新和ビル) 〒980-0014
電話022-223-9191

長野営業所
長野市緑町1605-14 (長野ダイヤモンドビル) 〒380-0813
電話0262-26-4281

広島営業所
広島市中区三川町2-10 (愛媛ビル広島) 〒730-0029
電話082-249-7369

四国営業所
香川県高松市天神前10-12 (香川天神前ビル) 〒760-0018
電話087-833-6511

インフラソリューション開発研究所
東京都町田市旭町3-5-1 〒194-8560
電話042-721-3660

青海工場 セメント・特混研究部
新潟県糸魚川市大字青海2209 〒949-0393
電話025-562-6312



● 本	社
● 支	店
● 営	業
● 研	究
■ 工	場

データ等記載内容についてのご注意

- 本書記載のデータ等記載内容は、代表的な実験値や調査に基づくもので、その記載内容についていかなる保証をなすものではありません。
- ご使用に際しては、必ず貴社にて事前にテストを行い、使用目的に適合するかどうかおよび安全性については、貴社の責任においてご確認ください。
- 本書記載の当社製品およびこれらを使用した製品を廃棄する場合は、法令に従って廃棄してください。
- ご使用になる前に、詳しい使用方法や注意事項等を技術資料・製品安全データシートで確認してください。
- これらの資料は、当社の担当部門にご用意してありますので、お申しつけください。
- 本書の記載内容は、新しい知見により断りなく変更する場合がありますので、ご了承ください。

警告		●水や汗・涙等の水分と接触すると強いアルカリ性になり、皮膚、目、呼吸器等を刺激したり、粘膜に炎症を起こします。
		●目に入れないこと。入った場合は、直ちによく洗浄し、専門医の診断を受けること。●皮膚に付けないこと。
		●鼻や口に入れないこと。●保護メガネ、防塵マスク、ゴム手袋を着用すること。●子供に触れさせないこと。

デンカ株式会社 特殊混和材部

本社：東京都中央区日本橋室町2-1-1 電話03-5290-5363